



ホールでの
過ごし方

- ◎携帯電話や音の鳴るモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中はお話ししないで静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

5/11 2024
(土)

第998回定期演奏会Cシリーズ

Subscription Concert C Series

会場：東京芸術劇場コンサートホール

【定期演奏会1000回記念シリーズ③】

指揮／尾高忠明

ピアノ／アンヌ・ケフェレック

武満 徹：《3つの映画音楽》より

映画『ホゼー・トレス』から「訓練と休息の音楽」

映画『他人の顔』から「ワルツ」（約8分）

モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番 ニ短調 K.466（約30分）

ウォルトン：交響曲第1番 変ロ短調（約45分）

PROGRAM NOTES

本日の指揮者は日本を代表する指揮者の一人である尾高忠明さんです。英国のBBC ウェールズ・ナショナル管弦楽団の桂冠指揮者でもある尾高さんが、英国が生んだ交響曲として、近年もっとも人気の高いウォルトンの作品を中心に、聴きごたえたっぷりのプログラムでお届けします。

武満徹：《3つの映画音楽》より
映画『ホゼー・トレス』から「訓練と休息の音楽」
映画『他人の顔』から「ワルツ」



Toru Takemitsu

最初は20世紀の日本を代表する作曲家、武満徹（1930～1996）の作品です。武満徹はピアノ曲やオーケストラ曲や歌曲など、さまざまなジャンルの音楽を作りました。大の映画好きでもあり、一年におよそ250本もの映画を観たそうです。そんな彼は、映画音楽も数多く作りました。《3つの映画音楽》は過去に手がけた3つの映画音楽を、弦楽オーケストラ用に仕上げた作品です。『ホゼー・トレス』はアメリカ人ボクサーの姿を追った1959年のドキュメンタリー映画。「訓練と休息の音楽」と題された曲には、ジャズ風の揺れるようなリズムとおしゃれなメロディーが使われています。『他人の顔』は1966年の映画で、事故で顔に大火傷をした男性が、仮面をかぶって生きようとするストーリー。「ワルツ」は軽やかでありながら、どこかもの悲しい3拍子の音楽です。

モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番 二短調 K.466

モーツァルト（1756～91）は18世紀後半に活躍した作曲家です。この時代の音楽家たちは、貴族のリクエストに応じて華やかで明るい音楽を作ることが多く、モーツァルトも長調の爽やかな曲を数多く残しています。しかし、彼は23曲あるピアノ協奏曲のうち2つだけ、暗さや悲劇的な表情を帯びた短調で描きました。第20番二短調はその一つです（もう一つは第24番ハ短調）。

当時29歳だったモーツァルトはウィーンで人気の作曲家として活躍し、貴族のお屋敷でのコンサートや予約演奏会でスケジュールは過密状態。そうした中でも、何か音楽に新しい風を吹き込もうとしたのでしょうか、当時としては非常にドラマティックな曲想をもつこの協奏曲は、モーツァルトの最高傑作に数えられています。曲は三つの楽章で構成されています。緊張感に満ちた**第1楽章**、一転して穏やかなメロディーで始まる**第2楽章**、そしてピアノ独奏の腕前の見せ所も多い**第3楽章**です。

第2楽章が、モーツァルトの半生を描いた映画『アマデウス』（1984年）のエンディングで使用され、この曲は一躍有名になりました。



Wolfgang Amadeus Mozart

ウォルトン：交響曲第1番 変口短調



William Turner Walton

ウィリアム・ウォルトン（1902～1983）は英国の作曲家です。日本では彼の名前はまださほど知られていないかもしれませんが、最近になって彼の音楽は高く評価されており、世界中の多くのオーケストラが取り上げています。およそ80年の生涯でウォルトンが残した作品の数はあまり多くありませんが、彼も武満徹のように映画音楽を残していますし、彼の弦楽四重奏曲はバルトークの影響を受けているとも言われています。また有名な演奏家や指揮者たちから「ぜひ曲を作ってほしい」という依頼をもらい、その期待に応えて作曲活動を続けました。

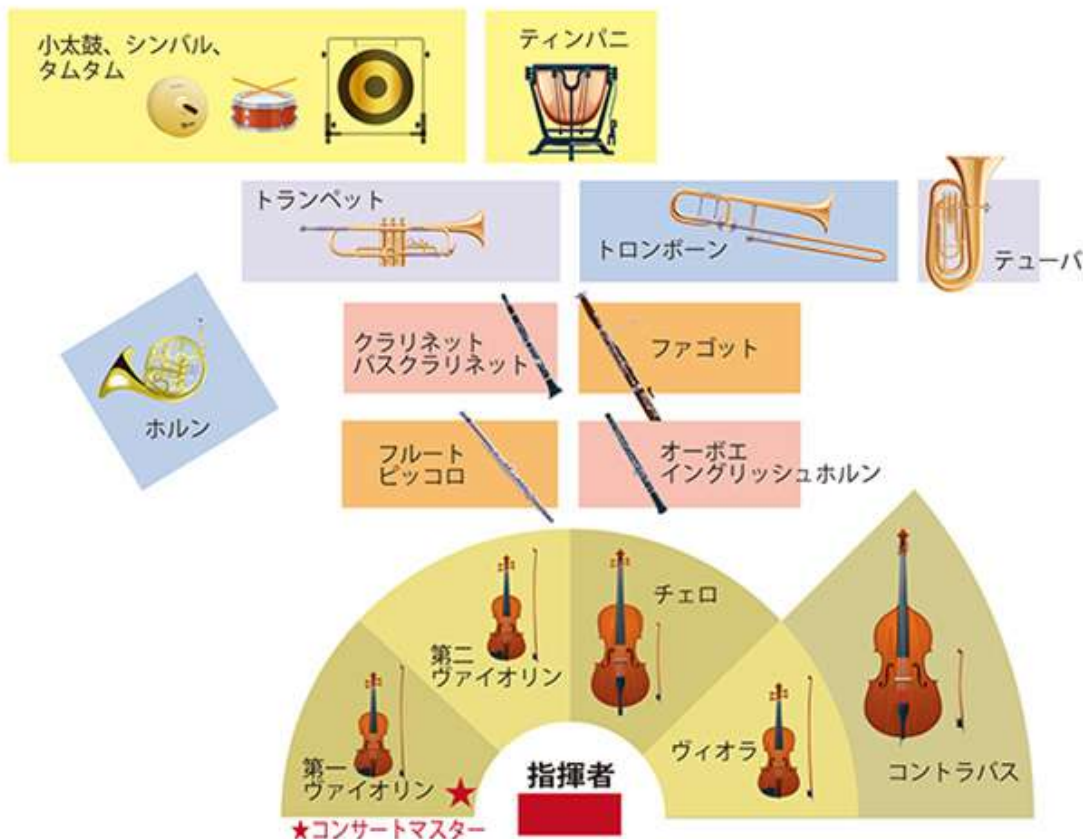
交響曲第1番は、英国で活躍した指揮者ハミルトン・ハーティからの依頼を受けて、1935年に作曲されました。曲は全部で4つの楽章でできています。第1楽章は静かに始まりますが、まるで冒険映画のように勇ましくワクワクとする展開が待ち受けています。迫力あるオーケストラの響きに注目です。第2楽章は様々なモチーフがスピーディーにいたずらっぽく動き回ります。「悪意をもって」という指示書きがなされている楽章です。第3楽章は打って変わって、ゆったりとしたメランコリックな音楽となります。第4楽章は爽やかに輝かしい響きで開始するフィナーレ。途中で、一つのメロディーが次々と重ねられていく「フーガ」という複雑な技法も取り入れながら、堂々としたクライマックスを作っていきます。

文/飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

【オーケストラ配置図】

5/11 第998回定期演奏会 Cシリーズ

※楽器の配置は一例です。
当日のステージで確認してください。





©Martin Richardson

指揮
尾高忠明 Tadaaki OTAKA

1947年生まれ。国内のオーケストラへの定期的な客演に加え、ロンドン交響楽団、ベルリン放送交響楽団など世界各地のオーケストラに客演している。

1991年度サントリー音楽賞受賞。1997年には英国エリザベス女王より大英勲章CBEを、1999年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与された。1993年王立ウェールズ音楽演劇大学より名誉会員、ウェールズ大学より名誉博士号など、たくさんの賞や称号を受賞している。2021年11月、旭日小綬章を受章。

現在、NHK交響楽団正指揮者、大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団桂冠指揮者などを務めるほか、複数の大学で後進の指導も積極的に行っている。



©Caroline Doutré

ピアノ
アンヌ・ケフェレック Anne QUEFFÉLEC

パリ生まれ。パリ国立高等音楽院を首席卒業後、パウル・バドゥラ＝スコダ、イェルク・デームス、アルフレッド・ブレンデルに師事。1968年ミュンヘン国際音楽コンクール優勝、翌年リーズ国際ピアノ・コンクール入賞。

これまでに、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、フランス国立管弦楽団等多数のオーケストラと、ピエール・ブーレーズ、クリストフ・エッセンバッハ、マレク・ヤノフスキ等の指揮者と共演。

『サティと仲間たち』や『モーツァルト：ピアノ協奏曲第20番&第27番』などたくさんのCDをリリースしている。映画『アマデウス』ではネヴィル・マリナーとの共演でピアノ協奏曲を演奏し、話題を呼んだ。

東京都交響楽団

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

東京文化会館（上野）を本拠地としてサントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動を展開しています。2021年7月に開催された【東京2020オリンピック競技大会】開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。



© Rikimaru Hotta



<https://www.tmsso.or.jp/>



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、サントリーホールでのプロムナードコンサート、東京芸術劇場での定期演奏会Cシリーズなど、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。ご支援企業については月刊都響をご覧ください。